

# 令和5年度 図書館協議会 議事録

令和6年2月1日((木)) 午後4時より

原村図書館2階会議室

出席委員 松沢文樹 中村恵子 半田裕 安藤文 名取真理子

事務局 古清水巖教育長 五味武彦生涯学習課長 中村君江図書館長兼係長

図書館係牛山省吾 図書館係兼学校司書宮坂順子

委員5名 事務局5名

1.開会 生涯学習課長

2.あいさつ 教育長

3.協議 司会 委員長

- 1) 令和5年度図書館利用状況等について・・・P1, P2 資料に沿って館長が説明
  - ・コロナ禍明けの開館となり、前年度(R4)と比較すると来館者数は、月平均500~800人程度増え、利用が戻ってきている。
  - ・諏訪地域の相互物流数も前年度(R4)と比較する数字は増加傾向

- 2) 令和5年度蔵書点検結果について・・・P3 資料に沿って館長が説明
  - ・不明本は前年度(R4)に比べると7冊減 37冊
  - ・前年度は、雑誌が14冊不明となり、対策として注意喚起の表示や職員が配架しながら定期的に見回りを行い、透明な貸出しバックを用意し、館内利用の工夫をしたことで、今年度の雑誌不明数は減少

意見・質問

A 委員 本の著しい破損はあるのか？

司書 一昔前は、切り取られている箇所、文字がマジックで消されていたことがあったが、最近はほとんどなくなった。

- 3) 令和6年度事業計画及び予算(案)について・・・P4 資料に沿って館長が説明
  - ・イベントの見直しを検討していく中で、集客を増やす為に講師料を上げ、興味を持てるような講師を呼べるよう、講師料を増額し5万円
  - ・備品購入費として、ワイヤレスマイクの購入で722,700円
  - ・図書館1階AV視聴コーナーのデスク撤去 204,050円中学生の居場所づくり、学習スペースの増、本を読むスペースを確保する為に。

意見・質問

B 委員 R6年からはらっぱの子どもの居場所(社会体育館・小学校校庭)が減ることから、

図書館も居場所の一つに入っていくようになる。その場合の子ども達の導線で何か良い案はないか。

館長 平日の夕方、おたのしみ会やおはなし会等イベント企画は行っている。

4) 令和6年度開館日(案)について 資料に沿って館長が説明

・住民の皆さん他利用者の方々に依頼した図書館アンケートは104名の回答。

Logo ホームと、紙面で直接回答。

回答の中に、休館・開館に対する要望も多く、利用者の利便性を求める声もあったため、

①②③の検討案を提示

① 図書館まつりについて

日程時期の変更・・・

R5 6月17(土)18日(日) → R6 10月26日(土)27日(日)

春から秋への変更

② 開館日について

・アンケート結果から祝日開館や休館日を減らす希望あり

・R6年度は、開館日を4日間増やし、お試しの開館を行う。

・実績を調査した上でR7年度以降に反映。

<開館日>

5月4日(土)みどりの日(祝日)・・・GW中の1日を開館

7月15日(月)海の日(祝日)・・・翌火曜日7月16日(火)を開館

9月16日(月)敬老の日(祝日)・・・翌火曜日9月17日(火)を開館

1月13日(月)成人の日(祝日)・・・翌火曜日1月14日(火)を開館

B 委員 他館と休館日を合わせる必要はなく、他館が休館している時に開館している図書館を利用してもらえば良いと思う。

あくまでも試みに4日間の開館日を作るが、実績を踏まえ必要性を考慮し、従来道理の開館に戻すということも事前に発信して実践することは大切だと思う。

委員長 お試しの開館をせず、開館日を増やさないという選択肢もあるのではないかと。他館を友好的に活用するメリットもある。しっかり調査をして、判断して欲しい。無理をしない範囲で住民の満足度を上げていければよい。

C 委員 原村図書館は規模が小さいので、職員の負担が大きいのではないかと。

開館日を増やすことは無理のないようにやってほしい。

他館が休館でも原村図書館を開ける必要はない。休館日が異なることで、開いている図書館があることが助かる。

③ 学習スペースの使い方について

・2階小会議室を学習スペースとして提供。小中学生の利用も多くなり、現在、2階大会議室も衝立を置いて学習スペースとして提供。秋頃からはらっぱからの小中

学生の児童生徒の利用も図書館に戻りつつある。

しかし、図書館のマナー、ルールを守れない子ども達もいてその都度声を掛けながらスペースも増やしているが、なかなか改善されない。

#### 意見・質問

D 委員 小学生のマナー、ルールが悪くて、申し訳ない。本来、お迎えを待つ場所ではない。

B 委員 はらっぱは賑やかすぎるが、図書館は静かに勉強ができるという子どももいる。  
教育長 この協議会の中に、子ども達も参加してもらってはどうか。図書委員の代表などと一緒に考えてもらい、子ども達から発信してもらうことで、意識も変わっていくのではないか。

委員長 子ども達も参加させるやり方を考えてみればよい。

#### 5) その他

##### 意見・質問

B 委員 はらっぱで本を借りたりするシステムはその後、導入されているのか。

生涯学習課長 機器的な準備はできているが、まだ、具体化していないので、支援係と相談してつめていきたい。

司書 システムをもっていくことは、分室扱いとなるので難しい。  
できることは、はらっぱで団体貸出カードを登録し、団体貸出のルールとして 100冊の本を図書館からはらっぱへ持っていき、1 か月間貸出利用ができるので、はらっぱの館内で閲覧のみとすることはすぐにでも対応は可能。

B 委員 家に持って行くことができたらなお良いので、検討して欲しい。

委員長 新年明けに来館した際、カウンターの予約本の冊数が多く驚いた。  
貸出数 20 冊が定着してしまったことが、職員の業務に負担がかかるならば、冊数を減らしてはどうか。

C 委員 すわズラーの予約機能は利用していて、非常に便利。

司書 すらズラーでも予約ができるので、休み明けは特に冊数が多く大変です。予約本も毎朝、職員が書架からひろい出しをしていますので。

館長 親子で絵本を借りていく場合、一回にかなりの冊数借りていく方もいます。

委員長 いろんな本を借りていく人がいるから、大変だが、今のままで。  
以前、視察に行って感じたのは、本来の業務の質の高さを下げてまでやることではない。

#### 4.閉会 生涯学習課長